

世界的漫画家・大友克洋氏が原画・監修
縄文時代から未来までの文化・美術の変革を
表現した大型陶板レリーフ
東京メトロ「銀座駅」に 12 月設置・公開決定

公益財団法人日本交通文化協会（東京都千代田区、理事長：滝 久雄、以下「当協会」）は、東京地下鉄株式会社（東京都台東区、代表取締役社長：小坂 彰洋）と公益財団法人メトロ文化財団（東京都千代田区、会長：本田 勝）の協力のもと、東京メトロ「銀座駅」に、縦 2.4m×横 7.0m の大型陶板レリーフを制作・設置します。作品は 2025 年 12 月に完成・公開を予定しています。

東京の中心にあり、気品高く優雅な空気を纏う街・銀座には、創業 100 年を超える老舗の専門店、世界的ブランド旗艦店、アート、演劇、新しい商業・体験施設など、伝統と最先端が共存し訪れる人々を魅了しています。国内のみならず世界中から人が集まる「銀座駅」を飾るパブリックアートを制作するにあたり、東京を舞台とした作品を数多く手掛けており、都市を独自の視点で描写する圧倒的な表現力で国際的な人気・実力・知名度を兼ね備えた漫画家の大友克洋氏に、作品の原画・監修を依頼しました。

構想を含め約 3 年かけて描いた原画について、大友氏は「文化の中心である銀座をテーマに、縄文時代からの美術・デザイン・工業も含めて、人間が作ってきた物、そしてこれからの未来の流れを表現した」と話しています。

陶板レリーフの製作を進めるクレーレ熱海ゆがわら工房（静岡県熱海市）では、職人たちが精緻に描かれた原画を深く読み取り、奥行きのある立体作品として表現していきます。

なお、本作品は当協会が手掛けるパブリックアートとして 563 作品目となります。作品の設置により「銀座駅」に彩りと活気をもたらし、さらに豊かな空間へと昇華させていきます。

<別紙 1>

陶板レリーフ 概要

- 当事業の目的
- ①漫画家・大友克洋氏の原画をもとにした陶板レリーフ作品によるパブリックアート普及の重要性を追求
 - ②パブリックアートを通じて気軽に芸術に慣れ親しむことで、人々の心を和ませ元気づける空間を創出
 - ③東京都心部の観光資源開発と地域活性化に貢献

■ 設置場所 東京メトロ「銀座駅」

■ 作品規模 縦 2.4m×横 7.0m

■ 原画・監修 大友克洋氏

■ 題名 未定

■ 協賛 セイコーグループ株式会社、公益財団法人メトロ文化財団

■ 陶板レリーフ製作 クレアーレ熱海ゆがわら工房（静岡県熱海市泉 230-1）

■ 作家プロフィール 大友克洋（おおとも・かつひろ）



1954 年宮城県出身。代表作「AKIRA」などの作品で海外でも名高い漫画家・映画監督。独特な作風で、1980 年代以降の漫画界に大きな影響を与え、欧米でもカルト的な人気を得た。2005 年仏芸術文化勲章シュバリエ受章、2012 年には米国アイズナー賞でコミックの殿堂入り、2013 年に日本政府より紫綬褒章を受章、2014 年米国アニー賞で生涯功労賞にあたるウィンザー・マッケイ賞を受賞、フランス政府から芸術文化勲章オフィシエを授与された。近年その文化功績を讃える動きが続いている。

■ 企画・制作 公益財団法人日本交通文化協会 <https://jptca.org/>

<別紙2>

大友克洋氏と日本交通文化協会がこれまでに手掛けたパブリックアート（3作品）



「金華童子風神雷神ヲ従エテ波濤ヲ越ユルノ図」

2015 年、仙台空港ターミナルビル 1 階国際線ロビーに設置。

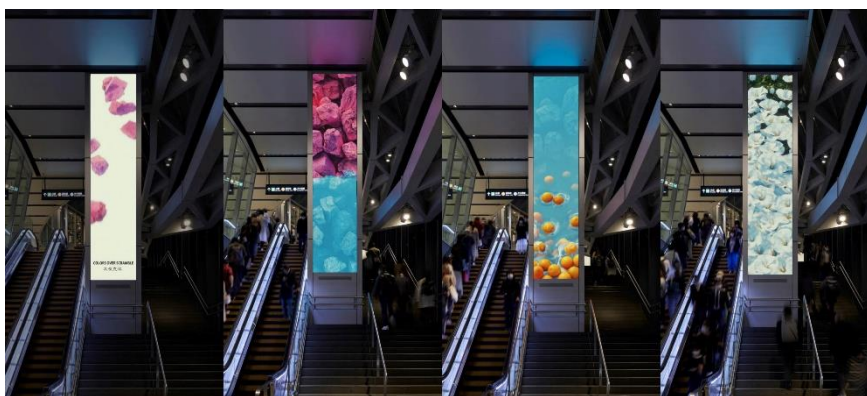
メカニカルな金魚に跨った架空の「童子」が風神・雷神を従えて、大いなる自然の力に立ち向かい、希望ある未来に向けて乗り越えてゆく姿をイメージしています。



「ELEMENTS OF FUTURE」

2020 年、東京工業大学（現：東京科学大学）大岡山キャンパスの Hisao & Hiroko Taki Plaza に設置。

人類、都市、機械、鉱物、水、炎の 6 つの要素が混じりあい、渦を巻き、混沌とした様相が表現され、立体的かつ躍動感あふれる作品です。



「COLORS OVER SCRAMBLE」

2021 年、渋谷スクランブルスクエアアーバン・コアデジタルサイネージで放映を開始したデジタルアート。

渋谷川の変遷や四季の移り変わりなどをモチーフに、コンピューターグラフィックスを活かし、1 分間の映像で無機から有機、色彩の変化などを表現しています。

* 日本交通文化協会は、芸術文化の振興および環境芸術推進活動の一環として、ステンドグラス、陶板レリーフ、彫刻、モニュメントなど、パブリックアートの研究や制作支援を行っています。